

2014年1月24日

報道関係各位

ソーラーフロンティア株式会社

**関西国際空港メガソーラーが完成
～アジアの空港で最大級の空港発電所～**

ソーラーフロンティア株式会社(代表取締役社長:玉井裕人、所在地:東京都港区、以下「ソーラーフロンティア」と株式会社日本政策投資銀行(社長:橋本徹、所在地:東京都千代田区、以下「DBJ」)による共同設立会社 SF ソーラーパワー株式会社の100%子会社である SF 関西メガソーラー株式会社は、関西空港内に大規模太陽光発電施設(メガソーラー)を、このたび完工しました。この「SF 関西メガソーラー 関西国際空港発電所」は、同空港のスマートアイランド構想の一環です。なお、発電開始は、2014年2月1日を予定しています。

ソーラーフロンティア製 CIS 薄膜太陽電池は、総発電量の高さや、光の反射が航空機の運航に影響を与えない防眩性などの特性を持っています。このようなパネルの特性に加え、海外プロジェクト等で磨かれたソーラーフロンティアの技術サポート力、DBJの資金調達支援が事業への信頼につながっています。ソーラーフロンティア社長の玉井裕人は、「10MWを超えるメガソーラーを、着工から7カ月というスピードで発電開始できるのは、当社のプロジェクト遂行力の高さを示すものです。計画通りの完成を迎え、関西国際空港の掲げる環境先進空港のコンセプトの推進に貢献することが出来ました。関係者各位のご尽力に感謝します。」と述べています。

ソーラーフロンティアは、このメガソーラーで、発電事業者としての維持・管理のノウハウを更に磨き上げていく考えです。さらには、空の玄関とも言うべき関西国際空港内の立地を生かし、CIS 薄膜太陽電池の性能と自らの運営力の高さをグローバルマーケットに対しても、発信してまいります。

以上

【施設概要】

発電容量	約 11,600 キロワット
初年度予想発電電力量	約 12 百万 kwh (一般住宅の年間電力使用量の約 4,100 世帯分、 CO2 約 4,000t 分)
発電事業開始日	2014年2月1日(予定)



【ソーラーフロンティア株式会社について】

ソーラーフロンティア株式会社は昭和シェル石油株式会社(5002, T)の100%子会社であり、CIS 薄膜太陽電池の生産・販売を行っています。2011年2月より商業生産を開始した国富工場(公称生産能力900メガワット)は、CIS 薄膜太陽電池の生産工場として世界最大です。ソーラーフロンティア株式会社が生産・販売するCIS 薄膜太陽電池は、銅、インジウム、セレンを使用して、当社の独自技術で生産する次世代太陽電池であり、経済効率が高く、環境に優しいことが特徴です。太陽電池の設置容量(kW)あたりの実発電量(kWh)が従来型のものに比較して高いだけでなく、原料からリサイクル処理まで高い環境意識で設計・生産されており、その長期信頼性や保証体制に関しては「JETPvm 認証(JIS Q 8901)」などの第3者機関による認証を受けてきました。デザイン面でも、内閣総理大臣表彰「第2回ものづくり日本大賞」で優秀賞(製品・技術開発部門)、財団法人日本産業デザイン振興会が主催する「2007年グッドデザイン賞」では特別賞エコロジーデザイン賞を受賞しています。詳細につきましては[当社ホームページ](#)をご覧ください。当社公式の[ブログ](#)、[Facebook](#)、[Twitter](#)でも太陽光発電に関する最新情報などを随時発信しています。

報道関係からの問い合わせ先:
ソーラーフロンティア株式会社 広報部
吉田 TEL: 03-5531-5792